

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	あおぞら広場をつくる会
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	金沢区 谷津町
提案名 (25字以内)	あおぞら広場
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容※1を工夫した点※2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>地域連携に日々取り組むあおぞら谷津保育園での子どもたちの活動が垣間見え、地域の方々が集い、人々の出会いが日常的に生まれるような広場を提案します。具体的な提案の内容は以下の通りです。</p> <p>1) 誰もが立ち寄りやすい場をつくる「ふらっとパーゴラ」 あおぞら広場の目印であると同時に地域のシンボルともなるパーゴラを設けます。また隣の谷津染井公園を普段利用する住民の方々からは公園に木陰が少ないという声があり、そうした人々の休憩場所の日よけにもなります。</p> <p>2) 道行く人々を自然と招く「みんなのベンチ」 園庭側から道路の方に伸びるベンチを設け、<u>道ゆく人々があおぞら広場に気軽にアプローチできる雰囲気</u>を生みます。ベンチ下の収納には非常時の備品などを収納することができ、<u>備蓄倉庫として利用</u>できます。</p> <p>3) 内外で視線と声が交わる「おとなこどもバーカウンター」 内側からは保育園の子どもたちが、外側からは地域の方が利用でき、<u>両者がそこで交流できるカウンター</u>です。窓の扉やカウンターの高さ等の細部の設計は「遊具の安全に関する規準」等を参照し、安全性に配慮します。</p> <p>4) 広場の存在をわかりやすく示す「ここだよ広場舗装」 駐車場部分を含む広場の地面の仕上げの素材を周りとは異なるものに変えることで、<u>広場の領域をわかりやすく示します。</u></p> <p>5) セキュリティと広場開放を両立する「広場変身ゲート」 広場の出入り口の部分に<u>広場の開放と閉鎖のモードを切り替える大きな門</u>を設けます。開放のモードの時にはあおぞら広場を自由に利用でき、夜間等の閉鎖モード時には現在の保育園と同等のセキュリティを担保します。</p>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください)	<p>近隣の方々がお茶を飲んだり、軽食を食べたりしながら、①園庭の子どもたちとカウンター越しにお話をしたりしながらゆっくりと過ごせる公園のような空間を目指します。またそうしたゆるやかな広場の活用とともに、七夕飾りをみんなでつくってパーゴラを彩るWSや地域のJAさんとの協働で行う食育ミニ講義等、②季節の行事や日々の地域活動など住民主体の広場の活用を想定しています。(活用の具体例は「その他資料」を参照) 一方でそうした活動主体は簡単に集まるものではなく、上手く広場を活用する誰かの姿を見</p>

<p>※第1次提案書より具体的に記入してください</p>	<p>て「私もやってみたい」と思う人が増え、そうした人々との繋がりを拡げていくような活動の進め方が必要だと考えています。そこで活動の初期は特に、③保育園をはじめとする私達の提案グループが率先して広場活用の企画を実施する他、保育園による地域と交流する園外活動を積極的に実施し、地域の方々の目に見える形で広場を活用していきたいと思います。</p>
<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>本提案の代表者が園長を務めるあおぞら谷津保育園では、「あおぞらふれあいまつり in 谷津」をはじめとする周辺地域の団体や住民らと連携しながら「子育て支援と地域交流」を目指した様々な取り組みを展開してきました。こうした活動を経て、少子化で子どもと関わる機会が少なくなっている地域社会において、子育てという営みを“様々な世代の人々が関わりあって進めていくこと”として捉えることが、地域のつながりを生み出すきっかけとなるとともに、多くの子どもが日々の時間を過ごしている保育園という場所には地域を元気づける大きなポテンシャルがあることを今強く感じています。一方でイベントなどの特別な日だけでなく、子どもたちと地域の方々、また地域の方々同士の触れ合いが日常的な風景となることの重要性も大きく、「あまり話したことはないけれども、よく見かけるよね。」というような“顔の見える関係性”の広がりや、地域の防犯強化や災害時などの共助のネットワークの構築、日常生活における孤独感の解消等にもつながり、人々の暮らしをより安心で豊かなものへと変えてくれるように思えます。</p>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>これまでに保育園の子どもたちから地域の高齢者まで、ワークショップというかたちで多くの方々とお話を重ねてきましたが、そうした中で得られた様々な意見やアイデアを反映させて基本計画をまとめました。<u>2次コンテスト後の2月～4月には実施設計を進め、その後工事に着手します。</u>整備においては地域の方々との繋がりを活かし、<u>①各所の塗装作業や②ベンチの作成、③地面の舗装等、可能なものはDIYによって作ります。</u>制作物の材料として近隣の方々のご自宅にある不用品などを頂いたり、園庭にあるピザ釜のレンガを再利用したり、<u>アップサイクルによる地域や園の記憶の継承を狙うと同時に工事費用の削減に努めます。</u>また園児ともこの“つくる”プロセスを共有し、制作活動の場を人々の繋がりを生む機会として活かします。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>1) あおぞら広場運営委員会の立ち上げと持続的な活動実施体制 本提案グループを中心としたメンバーで運営委員会を立ち上げます。広場空間のメンテナンスや運営委員会による自主企画、地域住民の方々主催するイベント等を調整・検討する定例会を、<u>月1回を目安に実施</u>します。</p> <p>2) 保育園の既存の地域連携活動・チームとの連携 保育園内で専任保育士2名が携わる地域子育て支援センターとの連携により安定的な運営体制をとります。月に1回行われている「地域子育て支援グループ」の園内研究会の中であおぞら広場を議題として設け、<u>子育て支援センターの利用者や地域のボランティアの方々にも運営に関わってもらいます。</u>また保育園では園舎の大掃除や手入れを地域の方々にご協力いただき、<u>その延長としてあおぞら広場の定期的なメンテナンスを実施</u>します。</p> <p>3) あおぞら広場が地域の方々のための場所であることの発信 地域の方々があおぞら広場の運営や催しの実施に関わりたいと思えるように、<u>あおぞら広場が地域の方々のための場所であることを日々様々なメディアで発信</u>します。広場空間にもその旨を明示するインフォメーションボード等を設置するほか、<u>広場の使い方の幅や可能性がわかったり、発想が拡がったりする子どもも大人もわかりやすいサイン</u>を設けます。</p>

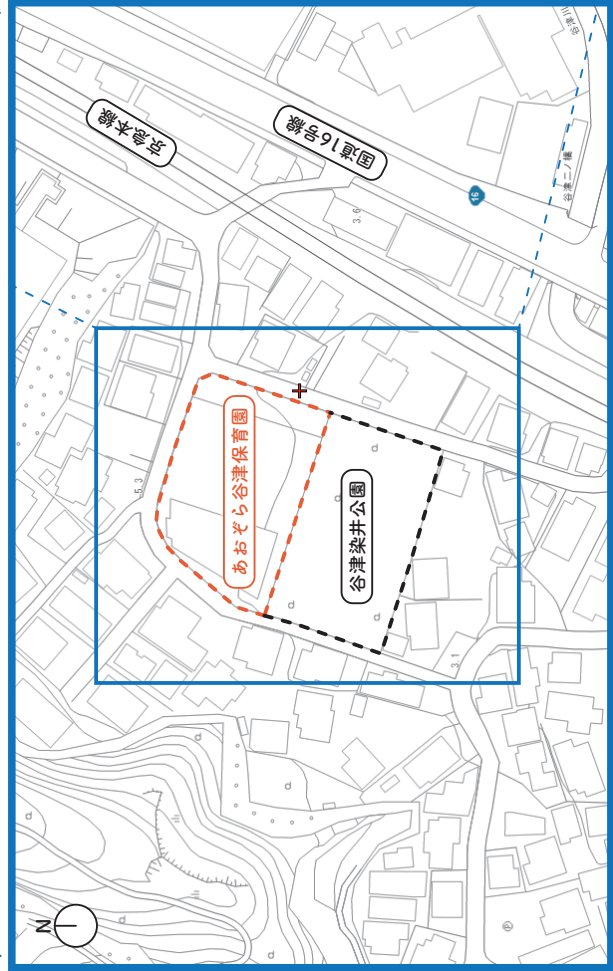
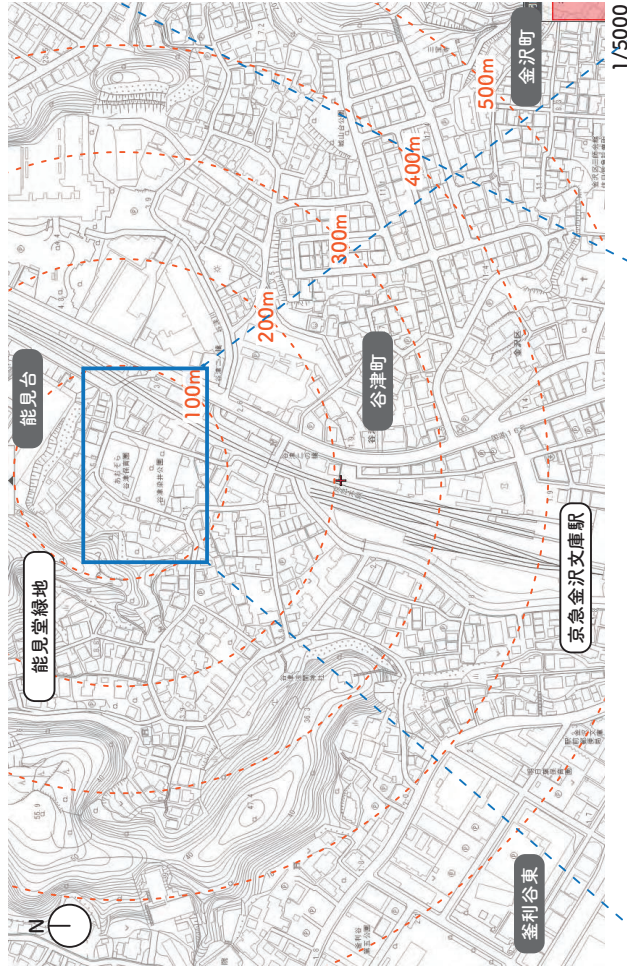
注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

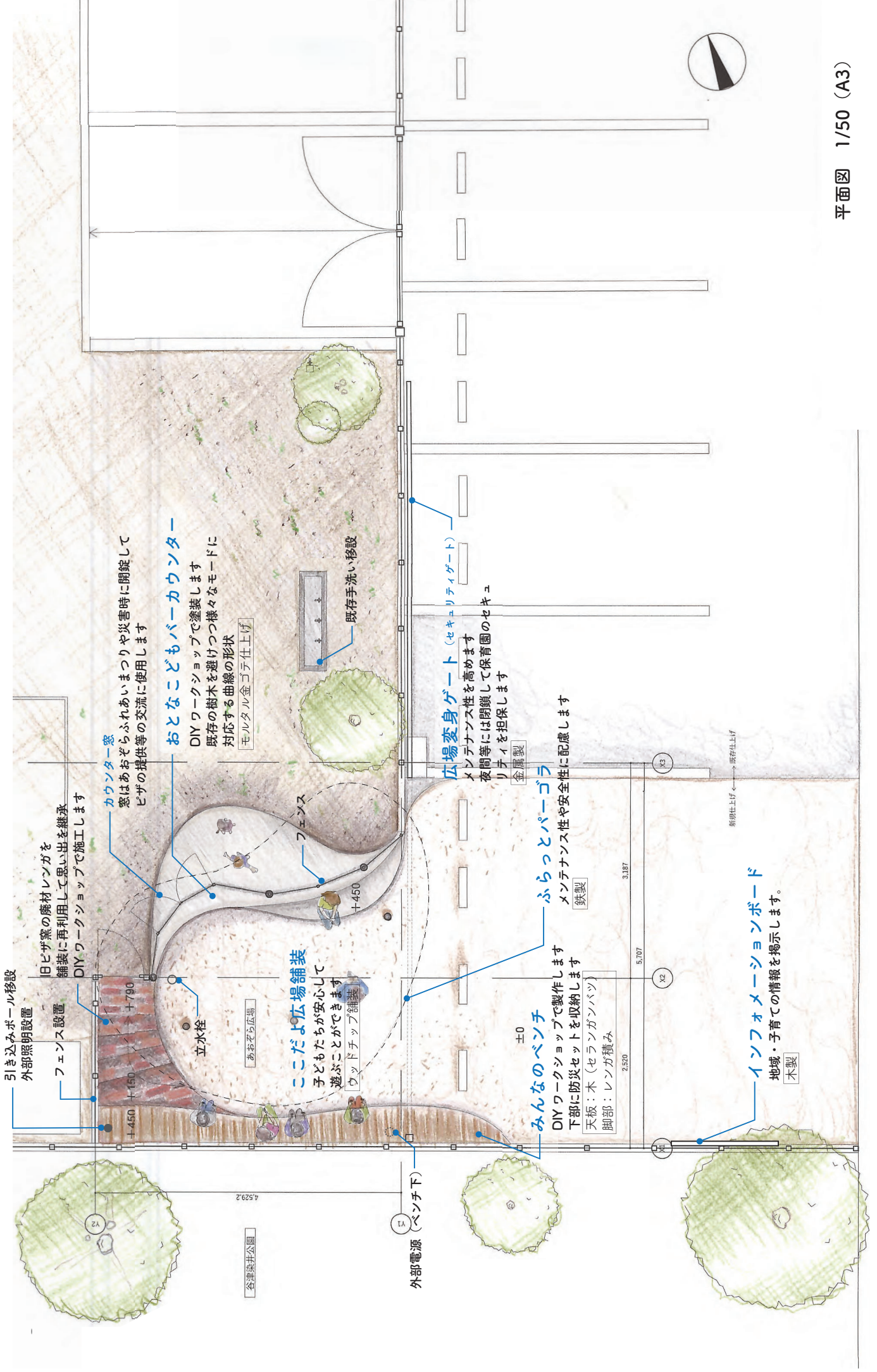
- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

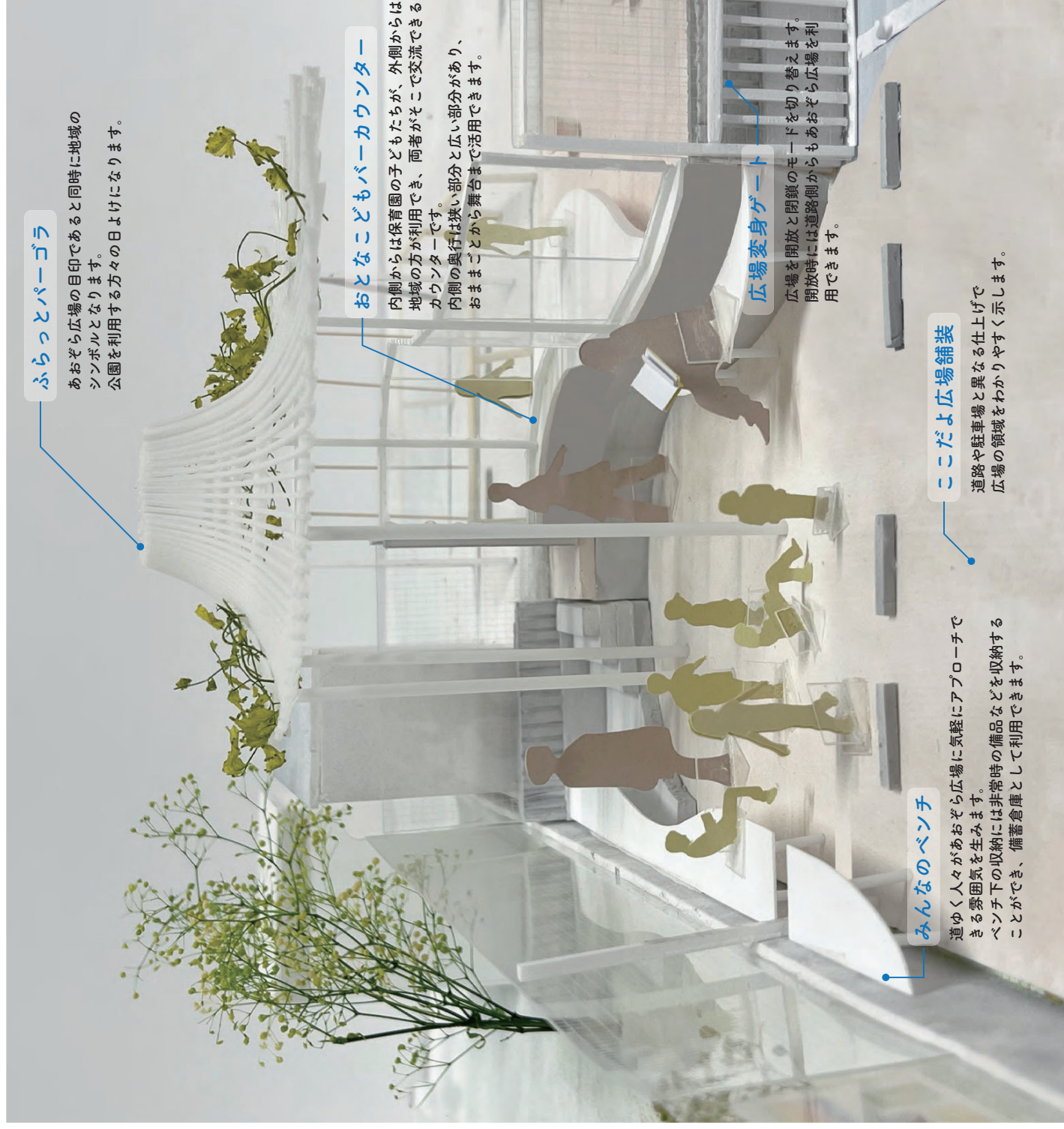
<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<p>保育園の保護者や地域住民の方々を対象とした「第2回あおぞら広場を考えるワークショップ」（9/7）や、保育園の職員の方々と子どもの安全性や広場を活用する際の利便性など保育士の視点からみたあおぞら広場について議論するワークショップ（9/27）等を通して具体的な空間の整備内容についての検討を進めてきました。また保育園の子どもたちと一緒に粘土等を使って模型をつくりながら、広場での遊び方を考えるワークショップ（10/24）や「あおぞらふれあいまつりin谷津」において関係者らで考えた広場活用案リストを対象に来場者に「いいね」と思った活動や自分がやりたいと思った活動に投票をしてもらうワークショップを実施するなど、ハード整備だけでなく、そこで具体的にどのような活動ができるのか、という空間のソフト面についても議論を重ねてきました。また模型や図面等の紙面上だけで広場を考えるのではなく、10/24、31には隣の谷津染井公園で活動されている地域の方々にご協力を頂いて保育園の子どもたちとお茶を飲みながらお話をしてみる社会実験を行い、あおぞら広場で思い描く子どもと地域の方の交流の姿のリアリティを確認できました。</p>
<p>関係者の合意・調整状況 （地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください）</p>	<p>9/2（月）に近隣の方々のご自宅を訪問した他、10/4（金）には谷津町内会役員会に出席し、本提案の説明を行った上で多くの方々から賛同のご意見をいただくとともに、今後の地域活動での連携強化（特に災害時の物資支援や避難場所の確保等）について相互に確認し合いました。10/27（日）には金沢シーサイドFMの番組「SEA SIDE LIVE SHOW」に出演し、本提案について紹介しました。また11/17（日）にあおぞら谷津保育園と谷津染井公園で実施された「あおぞらふれあいまつりin谷津」において、特設ステージ上で告知を行い、数千人の来場者に向けて本提案の紹介・説明を行いました。また本提案対象の地権者・管理部門であるこども青年局とは提案企画や具体的な設計の内容を共有し、協議・調整を進めてきました。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>1）これまでに保育園が築いてきた地域連携ネットワークの活用 あおぞらふれあいまつりin谷津の実施においては保育園職員や保護者だけでなく、地域の方々にも入っていただき実行委員会を立ち上げていますが、そうした地域連携の既存ネットワークを活用しながら、あおぞら広場の管理・運営を主導する運営委員会を立ち上げます。</p> <p>2）谷津染井公園の延長としての役割 対象敷地に隣接する谷津染井公園は多くの地域の方々に利用されていますが、木陰やベンチ等休憩できるスペースが少なく、公園の延長の空間としてあおぞら広場を位置付けます。</p> <p>3）災害等の非常時の避難・支援活動拠点としての活用 金沢消防署や消防団とも連携し、一時避難場所である谷津染井公園に隣接する防災本部として活用できます。</p>
<p>目指す地域の将来像 （施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください）</p>	<p>“地域で子どもを育てる”という認識が地域で当たり前のものとなり、その一つの共通目標に向けた日々の活動や行事等を通して普段触れる機会の少ない大人と子ども、そして大人同士が相互につながり合い、互いの顔の見えるゆるやかで大らかな関係性が地域全体に広がる将来像を描いています。またそうしてできた地域のネットワークの中で、少しでも多くの方が地域のために“何かをしたい”という想いを抱きながらあおぞら広場を活用してくれるようになり、その生き生きとした活動の風景が周辺地域の日常の一部をかたちづくり、より創造的で豊かな人々の暮らしが実現されることを目指します。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。







ふらっとパーゴラ

あおぞら広場の目印であると同時に地域のシンボルとなります。
公園を利用する方々の日よけになります。

おとな子どもバーカウンター

内側からは保育園の子どもたちが、外側からは地域の方が利用でき、両者がそこで交流できるカウンターです。
内側の興行は狭い部分と広い部分があり、おままごとことから舞台まで活用できます。

広場変身ゲート

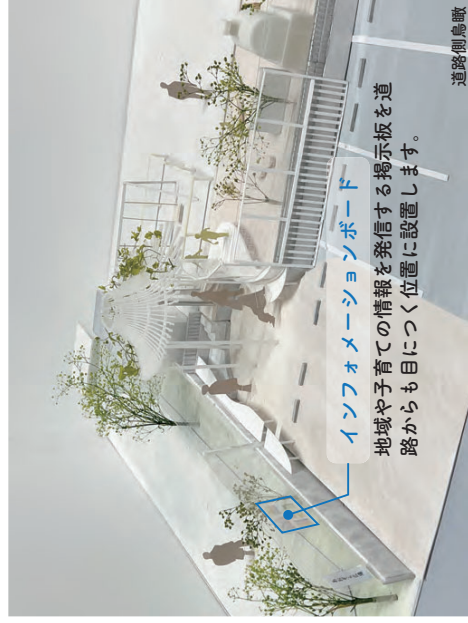
広場を開放と閉鎖のモードを切り替えます。
開放時には道路側からもあおぞら広場を利用できます。

ここだよ広場舗装

道路や駐車場と異なる仕上がりで
広場の領域をわかりやすく示します。

みんなのベンチ

道ゆく人々があおぞら広場に気軽にアプローチできる雰囲気を生みます。
ベンチ下の収納には非常時の備品などを収納することができ、備蓄倉庫として利用できます。



インフォメーションボード
地域や子育ての情報を発信する掲示板を道路からも目につく位置に設置します。

道路側鳥瞰



おとな子どもバーカウンター
カウンターは園庭側に膨らんでおり、子どもたちが乗って舞台のようにも使えます。

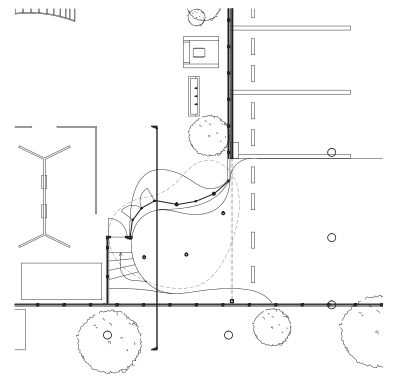
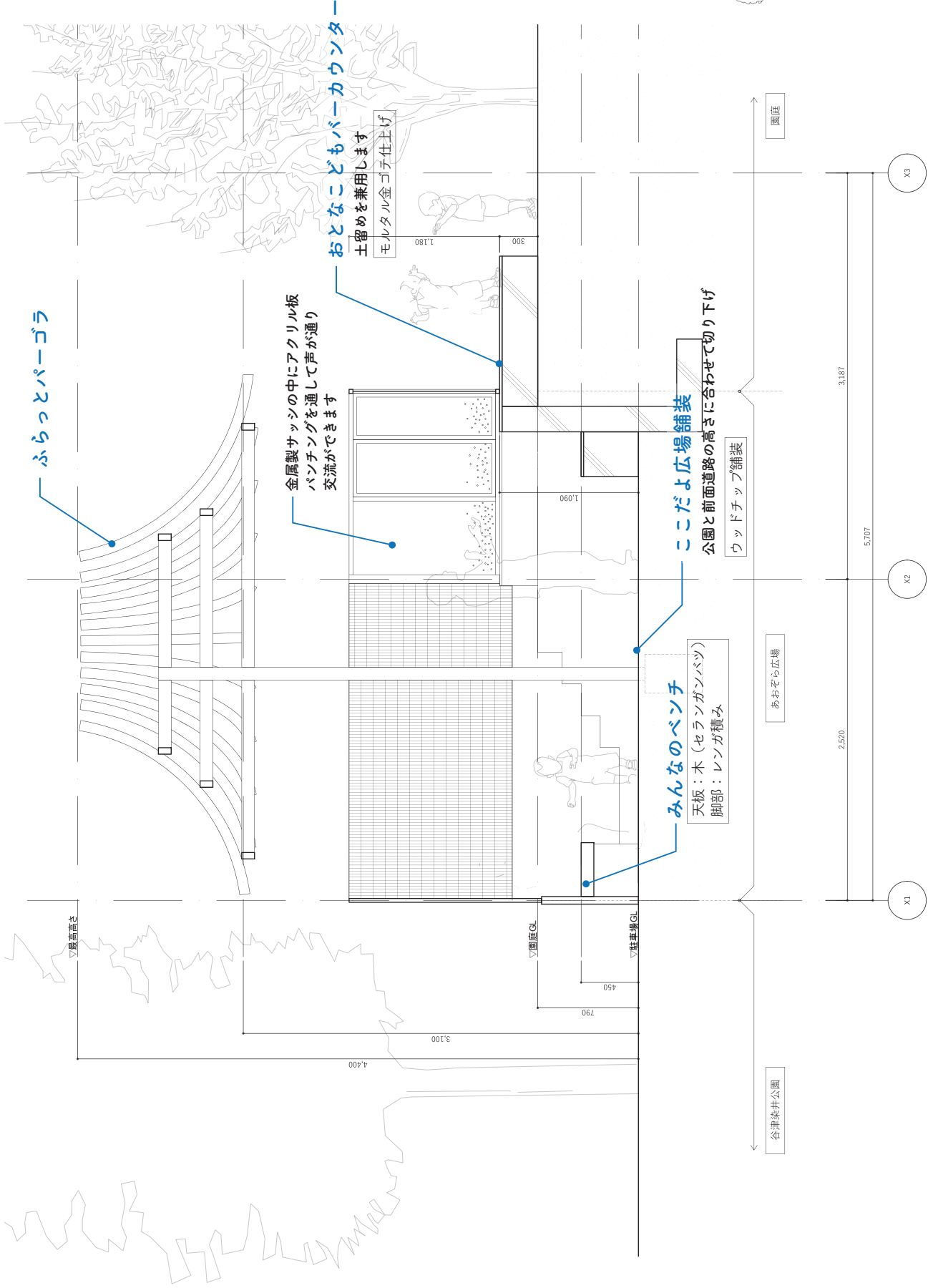
園庭側



ふらっとパーゴラ

みんなが集まる場所の目印として園庭側からも道路からも見えてやすいパーゴラを作ります

園庭側鳥瞰



断面図 1/50 (A3)

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
解体工事	塀撤去、窯解体、植栽抜根等	1式		1,500,000	
仮設工事	パーゴラ組立足場	1式		500,000	
土工事	広場部分掘削等	15m ³	100,000	1,500,000	
基礎工事	土止め、鉄骨柱基礎等	1式		1,000,000	
鉄骨工事	パーゴラ（一部）	1式		2,500,000	
木工事	パーゴラ（一部）	1式		500,000	
外装工事	パーゴラ・ベンチ・バーカウンター等塗装	1式		500,000	ベンチ塗装の一部をDIYワークショップで子ども達や地域住民と共に行う。 30（人・時間*）
建具工事	カウンター窓、通用門、セキュリティゲート	1式		2,000,000	
家具工事	ベンチ、カウンター、インフォメーションボード等	1式		500,000	ベンチ製作の一部をDIYワークショップで子ども達や地域住民と共に行う。 18（人・時間*）
電気工事	外部照明、電源、引き込みポール移設	1式		300,000	
給排水工事	既存手洗い移設、立水洗設置	1式		300,000	
外構工事	広場舗装、フェンス設置	1式		700,000	広場舗装の一部をDIYワークショップで子ども達や地域住民と共に行う。

					30 (人・時間※)
諸経費	上記工事費×10%	1式		1,180,000	
設計料	実施設計、工事監理	1式		1,500,000	
構造設計料	パーゴラ、土止め	1式		500,000	
合 計				14,980,000	

※ 例えば2人で3時間かかる作業を $2 \times 3 = 6$ (人・時間) と表します。

9/2 近隣住民の方々への訪問・本提案の紹介と説明

9/7 第2回あおぞら広場を考えるワークショップ

3つの設計案を比較しながらあおぞら広場のアイデアを出しあいました。



第2回あおぞら広場を考えるWS



第2回あおぞら広場を考えるWS



第2回あおぞら広場を考えるWS

9/27 職員ワークショップ

広場の安全性や運用上の使い勝手等について職員を中心としたメンバーで話し合いました。

10/4 谷津町内会役員会での本提案の説明

10/24 子どもワークショップ

保育の時間に子どもたちと一緒に粘土等を使ってあおぞら広場をつくりました。

屋外テント社会実験①

対象敷地付近にテントとベンチを設置して、地域の方々と一緒にお茶会をしました。

10/27 金沢シーサイドFMに出演・告知

10/31 屋外テント社会実験②

あおぞらふれあいまつり in 谷津

11/17 あおぞら広場活用方法・アイデア投票WS

まつりの来場者の方々に広場の活用方法を示したパネルを見てもらい、「いいね」シールを投票してもらいました。

あおぞらふれあいまつり in 谷津

あおぞら広場活用方法・LEGO制作WS

上のアイデアに加えて、新たな広場の活用方法についてLEGOブロックを使って子どもたちと一緒に考えました。



子どもWS



職員WS



子どもWS



テント社会実験



子どもWSの成果模型



テント社会実験



パネルに投票



ブロックで活用方法提案



広場活用方法投票&提案WS①



広場活用方法投票&提案WS②



広場活用方法投票&提案WS③

12/21 第3回あおぞら広場を考えるワークショップ(予定)

□ これまでのワークショップの成果と整備内容の変遷

7.5 Fri
第1回 あおぞら広場を考えるWS
 あおぞら広場の構想を説明した後、模型を見ながら新たな意見やアイデアを出し合いました。保護者目線では子どもの安全面に関する意見が多くでました。



保護者の方々の意見

- ・子ども達がカウンターに配置してある椅子に上ってジャンプしたり、柵を乗り越えたりしないように注意が必要である。
- ・保育園の周りに自動販売機がないため、何か飲み物や自動販売機を設置したい。
- ・車を運転する立場からすると駐車場側に入出口があるため、車のトラブリングが発生する可能性が高いことから入出口を公園側に変更するのはダメなのか？

地域の方々の意見

- ・情報ステーションを設置したい。
- ・水道とカウンターを一体化したい。
- ・使う人によって変化する様々な形のベンチがあるといい、使わないベンチはフェンスの下に収納して季節に応じて変化する広場にしてみたい。
- ・引き戸の門をメッシュにして視線が通るようにしたい。
- ・駐車場にある植栽部分を道路にした。
- ・パーゴラの上に植物を絡ませたい（果樹系とか）。



意見を基に透過性の高引き戸の門を設置

9.27 Fri
職員 WS

整備案やあおぞら広場周辺の遊具などに対して、第2回ワークショップでの意見を踏まえながら園職員の方の目線で意見を出してもらい、話し合いました。



あおぞら広場の整備内容について

- ・開閉できる窓の位置を変更する。
- ・第2回ワークショップで出た広場のステーション意見を採用しカウンターと合体させる。
- ・カウンター下をメッシュにし、声が通るようにすること。
- ・窓枠をカウンターの際に設置し、子どもが足をかけられないようにする。
- ・通りがかかった人の目にはまらぬようものを設置する。
- ・広場と駐車場の素材を統一する。
- ・ガーデニングできる場所を設け地域の人と育てる。

あおぞら広場周辺の植栽・遊具について

- ・プランコは2つなくす、位置変更はなし。
- ・プランコ機の倉庫は位置変更なし。
- ・太鼓構はプランコに近づける。
- ・移動する木と伐採する木を決定した。



C案のステーションと合体のぼりを立てる

10.24 Thu
子ども WS

あおぞら谷津保育園の子どもたちにも、あおぞら広場に何が欲しいか、完成したらどんなことがやりたいかを粘土や画用紙を使って自由に工作してもらいました。



子どもたちの意見

- ・友達とキノコシソーで遊びたい。
- ・みんなでソラマメを育てたい！
- ・滑り台が欲しい。
- ・トランポリンが欲しい。
- ・映画をみるスクリーンがあったら良い。
- ・アイス屋さんを欲しい！
- ・子どもたちが作った作品をステーションに展示する。
- ・地域のおじいちゃんや人が体験できるイスが欲しい。
- ・ごみを捨てる場所が欲しい。
- ・バスケコートゴールやフープで遊びたい。
- ・1人用の小さい椅子が欲しい。

子どもたちの作品紹介



11.17 Sun
あおぞらふれあいまつり in 谷津

活用方法・アイデア投票 WS

あおぞら広場での活動風景をスケッチで描いた合計33枚のパネルに「いいね！シール」と「私やります！シール」を貼り投票してもらいました。



活用方法・LEGO 制作 WS

あおぞら広場でなににしたい？というテーマで子どもたちがレゴを作成してもらいました。親御さんや学生と話しながら考え合計43個の作品が作成されました。



活動 LEGO の作品紹介



作品名 : アスレチック
活動内容: 階段を使用したアスレチック

□ 広場活用提案・アイデア集

運 あおぞら広場運営委員会が主体となった実施する活動

保 あおぞら谷津保育園が子どもの保育と連携して実施する活動

地 地域の方から「やってみたい」という声が既に挙がっている活動

ア 実施主体はまだ明確ではないが可能性のあるアイデア段階の活動

おはなし広場 ア

地域の方が保育園児や地域の子どもたちに読み聞かせを行う



シェア菜園 地

保育園児と地域の方がプランター等を使って一緒に植物・作物を育てる



あおぞらミュージアム 運

地域の方が展示や制作したおもちゃを持ち寄り展示会を開く



みんなの願い事を書こう! 地

七夕の際に保育園児と地域の方々の願い事を短冊に書いて笹飾りをする



あおぞらひな祭り 地

紙などで簡単に作れる、吊るし雛を地域の方々と一緒に作る活動



学びなおしあおぞら教室 運

子どもの体験や平和、包括的性教育等、園が取り組んできたテーマを中心に地域の方々にミニ講座を開催する



給食をみんなで食べてみよう! 保

保育園の給食を地域の方々みんなで食べる



ピザ提供カウンター 保

あおぞらふれあいまつりの際にピザの提供場所として利用する



お野菜教室 地

保育園と連携しているJAさんに野菜や食育についての話を地域の方々に合わせて行うイベント



地域の先生プチ講座 ア

地域の人の得意分野を題材にミニ講座を開催する



あおぞら広場の看板づくり 運

地域の人や子どもたちで地域の看板を作成し設置する



おみせやさんごっこ 保

保育園での体験やさんごっこを拡大して地域の親子と一緒に行う



クリスマスオナーナメントづくり ア

ツリーに飾るオナーナメントをみんなで作りツリーを飾る



レモンでクッキング 地

園内のレモンを使ってクッキング、試食会



親子ランチ ア

園舎・園庭開放に遊びにきた親子がお弁当等を持ち寄りランチをする



小学校で出会う前に 地

夏休みや冬休みに幼稚園に通っている地域の子たちと一緒に遊ぶ



流しそうめん 地

地域のひとと子どもたちで流しそうめんを作ったり、一緒に食べる



あつまれキッチンカー ア

お休みの日に地域のキッチンカーに来てもらいあおぞら広場で食べて交流する



昔遊び 地

地域の人に昔の遊び(羽子板など)を教えてもらい一緒に遊ぶ



あおぞら広場を考える会 運

利用者の声を聞くために、完成後も気軽に広場のあり方について意見交換できる交流の場を設ける



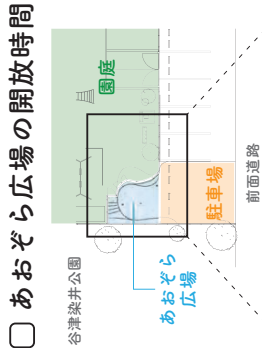
あおぞら掲示板 保

掲示板に園児の作品やクラスで人気の絵本、遊びを紹介する



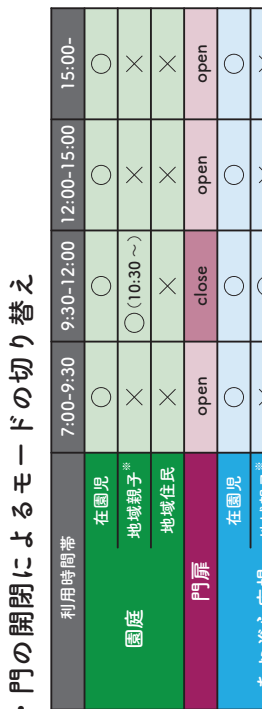
あおぞら広場 地

谷津井公園



あおぞら広場 地

園庭 在園児 地域親子* 地域住民
門扉 在園児 地域親子*
広場変身ゲート 閉
駐車場 閉



あおぞら子育てサロン 運

育児講座や悩み聞かせを通じて、地域の方との交流を深める



鯉のぼりづくり ア

みんなで作って飾るあおぞら広場に地域の鯉のぼりをつくる



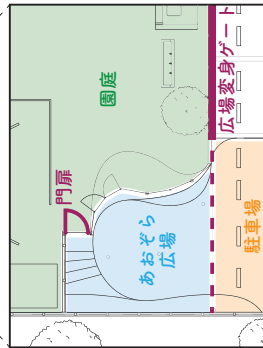
親子フリーマーケット 地

地域の方とのフリーマーケットを開催し、お古の洋服やおもちゃ、子育てグッズ等を売る



あおぞら広場 地

園庭 門扉 駐車場 広場変身ゲート



あおぞら広場 地

園庭 在園児 地域親子* 地域住民
門扉 在園児 地域親子*
広場変身ゲート 閉
駐車場 閉



□ あおぞら広場の開放時間・門の開閉によるモードの切り替え

利用時間帯	7:00-9:30	9:30-12:00	12:00-15:00	15:00-
園庭	在園児 ○	○	○	○
地域親子*	×	×	×	×
地域住民	×	×	×	×
門扉	open	close	open	open
あおぞら広場	在園児 ○	○	○	○
地域親子*	×	×	×	×
地域住民	×	×	×	×
広場変身ゲート	close	open	close	close
駐車場	駐車可	駐車しない	駐車可	駐車可

※「地域親子」の考え方

園では「わくわくあおぞらっこ」として地域の親子等を対象とした「地域子育て支援事業」に取り組んでいます。(今年度の利用者登録数:230組)今後、親子以外の方も登録により利用できるようにする予定です。

〔登園〕

↑ 広場開放

↑ 開 or 閉

〔降園〕

運営開始初期は平日の午前を開放時間とし、状況を見ながら午後(最長~15時)のあおぞら広場の開放を調整・検討します。

2次コンテスト事前質問集

【提案名グループ名】 あおぞら広場をつくる会	
事前質問	回答欄
朝比奈委員	
① ゲートの可動方法（レール？）や管理方法など具体的に教えてください。	門の可動方法としては門自体が自立し、地面に設置したレールの上をスライドできる方式（小学校の校門等で使用されるようなもの）を想定しています。門の開閉管理は提出資料記載の開放時間に従い、園の園庭開放を管理している地域子育て支援センターの職員が行います。
② まち普請以外の資金の調達方法を教えてください。	地域の方々や園の関係者等からの寄付金を募り、それでも不足する場合には園の整備積立金より支出します。
植松委員	
① 子ども達が遊んでいる様子をただ外から眺めている、というだけでなく、具体的交流に結びつける要素・仕掛けについて教えてください。	日常的に保育士や地域子育て支援センターの職員が園庭で活動しているので、随時広場の利用者の方々にお声掛けをし、会話を通して子どもと地域をつなぐ役割を果たしていきたいと考えています。具体的な活用方法の例については提案書の「その他資料②」に記載していますが、例えば活用アイデアの「おはなし広場」は現在も園舎で月に1回開催している「お話会」（お話の先生が季節を感じる絵本の読み聞かせや手遊びなどをしてくださり地域の親子が楽しく過ごす会）をあおぞら広場に舞台を移して実施することを検討しています。このようにまずは提案グループや園が主導してイベントなどを開催することで広場の利用イメージを掴んでもらい、利用者の輪を広げていきたい（例えば上記の「お話

	会」であれば先生役の地域の方や話を聞きに来られる地域親子から知り合いの方々を誘っていただく等)と考えています。
川原委員	
質問なし	
後藤委員	
① 広場と園庭の境界部分のフェンスは開閉しないのでしょうか？(声は通る、と資料に記載がありますが...)	広場と園庭の境界部分を窓としてつくるか、フェンスとしてつくるか、については現在も検討を続けています。開閉の管理のしやすさや子どもの利用時の安全性(窓が多いとその分指詰めリスクが大きくなる等)に鑑み、現段階での設計では一部を開閉可能な窓、その他を開閉が不可能なフェンスとして計画しています。一方で特にフェンスについてはそのデザインのあり方によっては広場と園庭の強い心理的な境界を生み出すことになってしまうので、ポリカーボネートを使用して視線は通るようにする工夫のほか、そこに微細な穴を設けて窓やフェンス越しの会話をしやすくする仕掛けなど、細部の設計の検討を続けています。(12/21に実施した第3回「あおぞら広場を考えるワークショップ」ではその穴の配置や大きさについて、合板で作った実物大のモックアップを用いてみんなで検討し、穴が小さすぎると不自然な意匠となることや、指や手のサイズに近い中途半端な大きさだと指や手が抜けなくなる可能性があることなどを発見・確認しました。)



様々な大きさの穴があいたパネルで検討

また窓については、園で開催されるイベント時や災害などの非常時には開けて利用することを想定しています。日常時には、保育士や地域子育て支援センターの職員らの見守りによる子どもの安全性を確保した上で極力オープンな広場と園庭の関係性を構築したいと考えていますが、これまでに審査員の方々や市の方々からもたくさんのご意見やアドバイスを頂く中で窓を開けることの安全性やセキュリティについての注意すべき点も明らかになり、検討を進めるほど、それらが簡単には両立しえないトレードオフの関係にあることの認識も深まってきました。現段階では運営開始時は窓を閉めておくことをベースとしつつ、多くの方々からいただいたご意見や運営の中でのフィードバックをもとに開閉の仕方について広場を使う段階においても継続的に検討していきたいと考えています。

杉崎委員

質問なし

鳥海委員

① パーゴラが活躍し、ひろばに木陰をもたらす時間帯は何時から何時頃の計算でしょうか。

開放開始時間として検討している 9:30 から、最長 15:00 までの日中の時間帯は広場に日陰ができます。朝方は東側（平面図下側）からの浅い角度で広場の一部に直接日

	<p>が差し込みますが、日中の強い日差しはパーゴラが効果的に遮光してくれます。またパーゴラには植物を巻き付かせることを想定しているので、遮光性能はさらに高くなっていくと考えています。</p>
<p>② 面白いアイデアですが、地域住民の利用できるパブリックスペースとしての時間が短いのが気になります。短い時間の中で有効的に活用するための仕掛けはありますか？</p>	<p>開放時間については、園児や地域の様子をみながら検討していきます。子どもにとって、急激な変化にならないよう、少しずつ様子を見ながら検討し、広げていくことを大切にしているからです。</p> <p>人と人をつなぐプロの地域子育て支援センターの職員が様子をみながら、子どもや地域の方々との会話の中から、あそびやイベントの提案へ広げていきたいと思っています。</p> <p>現在も、あおぞら谷津保育園では地域子育て支援センターを運営していますが、短い時間でも、専任保育士が意識的に関わっていくことで、たくさんの地域とのつながりが生まれていくことを強く実感しています。</p> <p>一方で運営側と関係性が構築できている他の団体や個人の方々によるあおぞら広場の利用は予約制度等をとることによって必ずしも開放時間内に限られるものではないと考えています。相談があった際には、運営側では開放しない休日等の活用を検討していきます。</p>
<p>③ 地域の日常的な休憩や公園の木陰代わりとしての機能を果たすには短いですが、園児・保護者の心的負担等を考えると、保育園の一部開放としてはいい時間設定だとも思います。一気に15時まで開放にせず、段階を踏んで開放するにあたり時間を長くすることで懸念されていることはどんなことですか？</p>	<p>最も大きな懸念としては運営側の負担増とその結果生じる可能性のある持続的な運営の困難さが挙げられます。あおぞら広場は保育園の園庭の片隅にあり、安全に管理していく責任の担い手として園が中心的な役割を担うべきと考えていますので、園運営の負担にならない時間で開放していきたいと思っています。</p> <p>またすぐに長時間開放することは子ども</p>

	<p>の環境を急激に変えることになり、子どもの心理的影響への懸念が生じると考えています。園では子どもの心理的影響を考慮し、子どもの生活に新しいこと取り入れていく時には短い時間から少しずつ慣れていくなど、子どもの様子を見ながら環境を整えていくことを大切にしています。</p> <p>以上のことからまずは9時半から12時30分で開放していき、子どもの様子や地域の実態にあわせながら、柔軟に変化させていく運営をしていきたいと思っています。今までも地域子育て支援センターはそうした考えで、時間帯を何度も検討し、その時々の実態や要求にあった運営を進めてきたからこそ園児にも負担なく、持続的な運営が可能となっており、その結果たくさんの利用者に喜んでいただいています。</p>
<p>④ 状況をみながら開放を9時半から15時まで開放した場合、駐車場の利用はできなくなりますがその場合でも永続的な開放は可能ですか？調整・検討した結果さらに9時半～12時までの開放時間が短くなることもありますか？</p>	<p>あおぞら広場の前の駐車場は、現在も9時から15時までには使用していないため、その時間が開放時間として設定された場合も問題はありません。</p> <p>運営開始時の開放時間として考えている9時半～12時の時間設定を更に短く設定する可能性はないと考えています。</p>
<p>⑤ 写真不可、〇〇禁止など場の使い方にはじめから制限を付ける予定のあるものを教えてください。</p>	<p>あおぞら広場を利用する方に対し、①個人情報、プライバシーの観点から、子どもや園の様子を写真や動画で撮ることは禁止、②喫煙禁止、③あおぞら広場でのイベント以外での飲酒は禁止、④あおぞら広場でのケガ等は園では責任をおいませぬ。くれぐれも安全に気をつけてご利用ください、という旨の掲示を行い、同意いただけた方のみご利用いただけるようにすることを想定しています。</p>
<p>⑥ 広場用にゾーニングされた駐車場の横の駐車スペースは午前中・15時まで延長した場合はどれくらい車の出入り</p>	<p>地域親子が出入りする午前中は常時1～2台、イベント時は多くて3台程度が駐車されていますが多くの親子が自転車やベ</p>

<p>がありますか？境目を、大人は理解できても子どもには難しいこともあります。不慮の事故や駐車時の巻き込み事故を防ぐために色分けゾーニングの他に工夫してあることはありますか？</p>	<p>ビーカーを利用されているので、駐車場が満車になることはほぼありません。また地域親子の出入りがない13:00-15:00の時間帯もほとんど駐車場の利用はありません。あおぞら広場の前の2台分の駐車場の地面の色を周りと異なるものにして、子どもや地域の方がより安全に使えるように工夫します。またその2台分の駐車場とそれ以外の駐車場の間にはチェーンを設ける他、駐車場の利用者には広場に遠いほうから駐車してもらうことを周知する予定です。</p>
<p>⑦ 「あおぞら広場」の利用者の怪我等があった場合、保険はどのように考えていますか？</p>	<p>保険には入りませんので、回答⑤の内容を事前に利用案内の掲示に記載します。</p>
<p>肥後委員</p>	
<p>① 足りない費用はどのように集める予定ですか？</p>	<p>朝比奈委員の質問②に対する回答と同じです。</p>
<p>松村委員</p>	
<p>① 想定整備費用は補助金の上限額を大きく上回っていますが、不足分の資金はどのように調達する予定ですか？</p>	<p>朝比奈委員の質問②に対する回答と同じです。</p>
<p>② バーカウンターに関する懸念（話しにくいのでは？スカートの中が見えてしまうかも？）について改善策を検討されましたか？</p>	<p>広場と園の視線が通りやすいように、窓やフェンスはポリカーボネートを用いつつ、そこに小さな穴を多数開けることによって声が通りやすい仕掛けを考えています。スカートの課題に関しては、まず在園児は現在も危険防止のため、スカートは履かないことになっているので問題ないと考えています。また在園児以外の地域親子はスカートを履いている子どもがいる可能性はありますが、常に保護者が横についている状態で活動するので、こちらも問題はないと考えています。（現状のフェンスも透過性のあるもので、境界の内外には今回整備する広場と同じ高低差がありますが、これまでにそうした問題は発生していません。一方で広場には犯罪行為等の抑制</p>

をはかるために新たに防犯カメラを設置する予定です。) また運営を始めて仮にそうした視線上の問題が生じた際には動かせる植栽や植木鉢等の設置による視線の調整を行います。

上記のような対策をとりながら内外の十分な視覚的關係を確保することで、普段は身長の違いで合うことのない大人と子どもの視線の高さがそろって会話がしやすくなることも大きなメリットになると考えています。こうして園の内外のより活発な交流、ひいては地域の人々の豊かなつながりを生み出していくことを目指しています。